

小児外科

1. 目的と特徴

こどもは大人のミニチュアではなく、小児医療は高度な専門性をもった領域である。一方、大学病院においては、小児期に手術をした患児は、成人になってからも小児外科医が経過観察を続けるという観点からは、小児外科医はこども専門の外科医ではなく、こどもを得意とする一般外科医であるべきである。常に謙虚な姿勢でこどもと家族に接し、こどもを愛し、こどもの身体にメスを入れることの意味を深く考え、こどもの長い人生を考えた医療を行うことができる小児外科医を育成することを目的とする。

東京女子医科大学小児外科は、病院内の独立した診療科であり、都内でも有数の日本小児外科学会認定施設に認定されている。小児外科専門医取得のための必須条件である外科専門医取得に際し、病院内および関連施設を中心とした研修ができるという利点がある。

小児外科では年間 250 例以上の小児外科手術を行っているが、対象疾患は出生直後の新生児期から学童期(15歳未満)までの頭頸部・呼吸器・消化器・泌尿生殖器・内分泌臓器・体表・小児腫瘍であり、小児泌尿生殖器も含めた幅広い小児外科研修が可能である。また、成人になってから発症する小児外科疾患に関しても、小児外科で治療が行われている。さらに、日本内視鏡外科学会技術認定取得医(小児外科領域)による腹腔鏡・胸腔鏡を用いた小児内視鏡外科手術や、小児消化器内視鏡診断・治療が大きな特徴となっており、こどもに優しい低侵襲の小児外科診断・治療を研修することができる。さらに、小児科、腎臓小児科、循環器小児科、母子総合医療センター新生児部門、脳神経外科小児部門などの小児医療関連各科との密接な連携のもと、高度な小児チーム医療の中で小児外科の研修を行うことが可能である。

2. 指導スタッフ

診療部長・臨床教授	世川 修
医局長	末吉 亮
病棟医長	世川 修
副病棟医長	山田 進
外来医長	末吉 亮

3. 研修施設

基幹施設：東京女子医科大学小児外科

研修協力施設：熊本赤十字病院小児外科、順天堂大学小児外科・小児泌尿生殖器外科、順天堂大学練馬病院小児外科、順天堂大学浦安病院小児外科、東京女子医科大学足立医療センター外科、東京女子医科大学八千代医療センター小児外科、静岡こども病院小児外科、茨城こども病院小児外科、長野こども病院小児外科

4. 研修カリキュラム

A：一般目標

小児外科専門医を取得するためには、外科専門医あるいは日本外科学会認定登録医の資格を有すること、認定施設において小児外科の研修を研修医として通算3年以上行っていること、外科医として7年以上(うち5年以上は臨床研修とする)の経験を有すること、が必要最低条件となっている。東京女子医大小児外科では、上記の必要最低条件に加えて、成人外科でのトレーニングが小児外科専門医取得のために非常に重要であるという見解から、初期研修終了後の3年間はまず成人外科のトレーニングを中心に行い、卒後6年目より小児外科の専門研修を行うコースを基本コース(Aコース)としている。また、早期より小児外科研修を希望する場合には、卒後3年目より成人外科研修と小児外科研修を平行して行うコース(Bコース)もある。いずれのコースの場合も、小児外科研修は日本小児外科学会認定施設で行い、外科専門医を卒後5年目、小児外科専門医を卒後9年目に取得することを目標とする。

卒後年数	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目
------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

外科専門医



小児外科専門医



A コース	初期臨床研修	後期臨床研修	
		成人外科研修 (一部小児外科研修) 大学／研修関連施設	小児外科専門研修 大学／研修関連施設 (日本小児外科学会認定施設)

B コース	初期臨床研修	後期臨床研修
		成人外科研修と小児外科研修を平行 大学／研修関連施設 (日本小児外科学会認定施設)

B：行動目標

卒後 3-5 年度

- ・外科専門医を取得するための一般外科研修を中心に行うとともに、小児外科領域の一般的疾患の診断に必要な問診および理学的診療法を修得する。また、その一次的診療計画を組み立てることができる。

卒後 6-7 年度

- ・小児外科領域における術前・術後管理の習熟、および基本的処置が実施できる。
- ・小児外科領域のあらゆる疾患の診断に必要な問診および理学的診療法を修得し、その診療計画を組み立て実施できる。
- ・小児外科疾患における中等度の手術的療法を術者として実施できる。
- ・小児外科関係の学術集會に可能な限り参加し、演者として発表するとともに論文作成を行う。

卒後 8-9 年度

- ・小児外科領域のあらゆる疾患において、独立責任診療が基本的に可能であり、junior 医師の指導ができる。
- ・小児外科疾患における高度の手術的療法を、術者として実施できる。
- ・小児外科領域における研究論文、症例報告論文を発表し、学生の臨床実習において直接的指導、講評を行うことができる。

C：研修方略

卒後 3-5 年度

- ・基本的検査：特殊部位での X 線単純撮影（新生児一学童）、注腸造影（乳児一学童）、上部消化管造影（乳児一学童）、膀胱造影、腰椎穿刺、骨髄穿刺、腹腔穿刺、胸腔穿刺
- ・新生児、乳児を含めた小児の採血、末梢静脈ルート確保、中心静脈カテーテル(PICC) 挿入
- ・手術的治療：外鼠径ヘルニア根治術（幼児一学童）、精巣固定術（陰嚢アプローチ）、膀胱鏡検査、腹腔鏡・胸腔鏡検査、膿瘍切開・排膿術、その他の局所麻酔下で可能な小手術

卒後 6-7 年度

- ・術前術後管理：呼吸管理、体液管理（水分、電解質、バランススタディ）、栄養管理、感染対策
- ・基本的処置：中心静脈カテーテル挿入（穿刺法、切開法）、外鼠径ヘルニア嵌頓整復術、腸重積非観血的整復術、蘇生法、腸洗浄、ED チューブ挿入、イレウス管挿入
- ・特殊検査：新生児に対する上部下部消化管造影検査、超音波検査、上部下部内視鏡検査、リンパ節生検、消化管機能検査、直腸生検
- ・手術的治療（中等度）：以下およびこれに準ずるもの
外鼠径ヘルニア根治術（新生児、乳児）、虫垂切除術、痔瘻根治術、精巣固定術（鼠径部アプローチ）、包茎環状切開術、粘膜外幽門筋切開術、腸重積観血的整復術、胃瘻造設術、人工肛門造設術・閉鎖術、低位鎖肛根治術、腸回転異常症手術、腹壁破裂（sutureless 法）、腹腔鏡・胸腔鏡手術（軽度・中等度）

卒後 8-9 年度

- ・手術的治療（高度）：以下およびこれに準ずるもの
先天性食道閉鎖症、肺縦隔疾患、先天性横隔膜ヘルニア、腹壁破裂、新生児消化管穿孔、先天性腸閉鎖症、Hirschsprung 病、中間位・高位鎖肛、胆道閉鎖症、先天性胆道拡張症、悪性腫瘍、腹腔鏡・胸腔鏡手術（高度）

D：週間予定

外来：月曜、水曜、木曜、土曜

手術：火曜、金曜

教授回診：火曜、金曜

症例カンファレンス：火曜、金曜

5. 後期臨床研修終了後の進路

後期臨床研修終了後、東京女子医科大学小児外科に就職を希望するものは、小児外科診療部長と相談し、助手もしくは助教として採用も可能。こども病院での研修や海外留学も可能である。

6. 学位

小児外科は講座には属していないが、学位取得は可能である。3年次以降、学位取得を希望するものには学位テーマが与えられ、指導医のもと研究を開始する。研究論文が掲載された後、小児外科診療部長との協議のもとに学位の申請が可能である。

7. 専門医

日本小児外科学会専門医取得のための必須項目である日本外科学会専門医を、研修期間中に取得する。その後、日本小児外科学会専門医・指導医、日本小児泌尿器科学会認定医、日本内視鏡外科学会技術認定（小児外科領域）取得医などの取得が可能である。

8. 問い合わせ先

東京女子医科大学小児外科

〒162-8666

東京都新宿区河田町 8-1

東京女子医科大学小児外科

医局長 末吉 亮 (sueyoshi.ryo@twmu.ac.jp)

TEL：03-3353-8111（内線：28113）

FAX：03-5269-7617

小児外科ホームページもご参照下さい。

<http://www.twmu.ac.jp/pediatric-surgery/>